

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500099		
法人名	有限会社 ケアつかさ		
事業所名	グループホームコスモやよい		
所在地	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地		
自己評価作成日	平成30年5月25日	評価結果市町村受理日	平成30年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500099-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古府国巻番館 1F
訪問調査日	平成30年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は自然豊かな山や田に囲まれて四季の風景を感じることができます。入居者様は思い思いにゆっくりと自分のペースで過ごされています。職員は入居者様の安全を配慮して環境を整えたり、健康面では毎日の健康チェックや食事、排泄などを把握し、また精神面での安定を含めた体調を見ながら穏やかに過ごせるように努めています。入居者様やご家族との縁を大切に思い、事業所の理念である「寄り添う介護」が実践でき、「『コスモやよい』で暮らすことができてよかった」と思ってもらえるように介護に精進し、入居者様や職員が地域の一員として馴染んで暮らしていくために地域活動や人々とのふれあいを大切にしていきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐伯市の自然が楽しめる地域に位置し、入居者は四季折々に変化する景色を眺めながら平穏に暮らしています。外出支援の一つとして、神社の祭りに参加させて頂くなど地域の協力や、定期的にボランティアの訪問を得て、歌・演技を楽しんでいます。食事は地域で取れた、新鮮なものを材料として、メニューに活かされ、おいしく召し上がられています。食後は、各々自由にテレビを観たり談笑をして寛ぎ、共同生活を楽しまれています。特に支援の中で身体拘束・虐待の撲滅を意識され、職員研修を積極的に取り組む姿勢が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関と事務室に掲示をして毎日朝礼時に職員間で復唱しています。理念に添った介護が実践できるように努めています。	地域密着型サービスの社会的役割を意識しながら、朝の朝礼で理念を復唱したりミーティング・ケア緩和等で、その意味を検証され、利用者本位の支援に取り組まれています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶を交わしたり、話をしたりします。地区の店から野菜を配達してもらっています。	お祭やお神楽など、地域の行事には可能な限り利用者と共に参加し、施設の行事に案内状を出し参加を頂き、近隣集落は少ないですが、ボランティア、歌を楽しむ人たちが毎月訪問を頂いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族には面会時等に折に触れて伝えていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動報告や入居者様の様子などを話をして参加者からの意見を求めてサービスの向上に努めています。	運営推進会議は、6~7名で行われ、地域の情報・施設の課題等意見交換がなされ、自己評価・外部評価、改善点等について双方向で話し合いがなされ、会議で出た課題は職員に報告されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険係に制度について尋ねたり、運営推進会議に出席される包括支援センターの職員に市の介護保険情勢や現状などを聞いたりしています。	制度改正や利用者の状況の変化に伴い、市の職員と意見を交わし、困難事例等についても課題を共有し、積極的な指導を頂くなど連携はスムーズに保たれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないという意識を持ち、日々の介護に努めています。月に一度身体拘束対策委員会を開きその内容を職員に周知しています。	毎月の会議で、身体拘束の弊害を共有し、スピーチロック(言葉の拘束)の研修に取り組まれ、施設全体の支援の中で生かされ、職員同士で拘束と感じる部分は、積極的にマニュアルにより対応されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修にて虐待防止について学び、意識の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要なケースが生じた場合には関係者と話し合い支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族に契約について話をしています。不安や疑問点には十分な説明をして理解してもらい、署名押印していただきます。法改正の時には文書でお知らせしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。入居者様には生活する中で意見や要望を尋ねたり、ご家族には面会時に意見を聴くようにしています。	意見箱の利用は有りませんが、いつでも要望・意見・苦情が伝えられるシステムが構築されています。本人・家族から意見等があった場合、職員で課題に対し共有・対応がなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング等、日頃から意見を聞いて代表者に伝えています。	支援する日常的な関わりの中で感じる、職員の気づき・アイデア等積極的に受け入れ、運営の中に取り組みがなされ、職員の交代・新規採用等についても職員会議を通じ、報告されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所に立ち寄り職員の勤務状態を把握して、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度事業所内で職員研修を行います。外部の研修の案内を掲示して希望者には勤務を調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	きら		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に本人と話をして困り事や不安なこと、要望を傾聴するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時にご家族と話をして困り事や不安なこと、要望を傾聴して関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後のサービスについては、本人やご家族の意向を聴いて必要な支援を見極めて、事業所としてできる限りの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と同じ時間を共有する中、喜怒哀楽を共にしながら一緒に過ごすようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、居室や居間でゆっくりと話をして過ごしてもらいます。間に入って日頃の生活の様子を伝えるなど一緒に話をしたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の出身地の話や歌を聴いて話をしています。また、ドライブで出身地区を走り、馴染みの景色を見ながら話が弾んでいます。	重度化に伴い、記憶が薄れて行く利用者もいますが、電話等活用し出来るだけ要望に応じ、馴染みの人と連絡が取れる対応に取り組みされ、馴染みの職員が長く支える体制作りがなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や行動を把握して、衝突しないような場面作りに配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族に外で会ったときには挨拶を交えて話をしたりします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の関わりの中で本人の思いや意向などを聴くようにしています。困難な場合にはご家族に聞いたり職員間で本人本位に検討しています。	重度化になる中、日頃の支援で、表情を観察しながら、笑顔で意向や希望の把握に努め、利用者が安心できるよう対応がなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族から生活歴や生活環境、これまでの経過などを聴いています。入居後もいろんな話をしていく中で少しずつ聴くようにして把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握するように努めています。日によってできることやできないことが変わるので、場面に応じた対応をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を聴いて介護計画を作り、職員間で話し合います。	これまで生活してきたことを継続・尊重し、本人の意向に沿った介護計画に取り組み、認定更新時期や本人の状態の変化を見逃さず、計画作成・変更やモニタリングも職員と共有しながら、取り組みがなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様毎にケース記録があり毎日の生活の様子やケア内容、気づきなどを記録して職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に応じて事業所としてできる限り柔軟な対応ができるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して、入居者様が安全で豊かな生活を楽しむことができるようにしていきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望や状態に応じてかかりつけ医を決めています。受診には必ず同行して、主治医とよりよい関係が築けて適切な医療を受けられるように努めています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっています。家族が受診に同行を希望される場合は同行して頂いています。受診の結果は必ず家族へ報告がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していません。入居者様のことや気になることや気づきなどは受診時に病院の看護師に相談したり、電話で聞いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の連携室と連絡を取り合い病状を把握して経過を尋ねたり、退院の調整をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期についてはご家族の意向を聴いて話し合い、事業所としてできる限りの対応をしていくように努めています。	重度化や看取りについて、家族や職員と話し合いがされ、家族の意向に沿った統一した支援がされています。終末期を迎えた家族に寄り添い、安心して最期を迎えられるよう支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には状況に応じて対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施、その他定期的に事業所内で避難訓練を実施しています。必要に応じて地域の協力をお願いしています。	定期的に避難訓練がされています。消火器の取扱い方の指導もされています。避難経路に、危険物や妨げになるようなものはなくスムーズに行われています。今後は夜間を想定した、訓練も検討されています。	非常食の備蓄の検討を希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格が違うので、プライバシーを守り、誇りを損ねないようにその人にあった声かけや対応をしています。	利用者と職員が長く接しているという事もあり、つい、なれ合いになってしまいがちですが、お互いに注意しあい、利用者のプライバシーを損ねないように適切な対応をされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、希望や意見をよく聴いて自己決定できるような場面作りをしたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースで生活できるように心がけ、楽しく暮らせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを選んでもらい、その人らしい身だしなみに気をつけるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の材料や旬のものをバランスよく取り入れて調理をしています。入居者様と職員と一緒に野菜の皮むきや食後の茶碗洗いをしたりします。	誕生会・クリスマス・敬老会等の行事食をとりいれ、楽しんでいます。食事形態も個人に合った食べやすい形態で提供されるなど配慮がされています。時には外食をされるなど気分転換も図られています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎回記録しています。月に1度体重測定をします。本人の嚥下や咀嚼状況を配慮しておかゆや刻み食にして、自力摂取できるように声かけをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに声かけして、確認または介助をしています。食物残渣が残らないようにします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録して個々の排泄パターンを把握し、トイレに誘導しています。尿意や便意のない入居者様には時間誘導してトイレで排泄できるように支援しています。	利用者のしぐさや動きなどのサインも見逃がさず、トイレに誘導されています。拒否が見られる場合には、無理に行わず様子を見ながら落ち着いた時に声掛けするなどその人に合わせた支援がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操をしています。水分は毎日1000ml摂取するように工夫しています。薬で排便のコントロールを行いません。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する場合は無理せずに、再度促しています。入浴中は会話をしたり、急がせないようにしています。入浴は午後からですが、本人の希望で午前中に入浴する入居者様もいます。	入浴中は、ゆっくりと利用者のペースで安全に支援されています。介助中はコミュニケーションをとり感想など聞かれています。入浴中の会話など記録に残されています。冬場は入浴剤を入れ、しっかりと温まるよう配慮されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎食後はゆっくり過ごしてもらい、昼寝をする入居者様もいます。寝具はいつも清潔にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の薬は袋に書いてある名前を必ず声に出して呼んで確認して服薬してもらいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや掃除などを手伝ってもらったり、音楽を聴いて一緒に歌ったりして楽しんだり気分転換をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調をみてドライブに出かけたり、ホームの敷地内を散歩したりします。	利用者の体調を見ながら、1.5時間くらいで外出し気分転換を図っています。その際に実家の近くに立ち寄ったり、馴染みだったお店に立ち寄ったりと外出を楽しんでいます。外出先でアイスクリームを食べたり、好みのおやつを食べ喜ばれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金の所持はしていません。本人の希望と一緒に衣料品などを買いに行くこともあり、お金の大切さを話したりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いだりします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒防止や危険を避けるため不必要なものには置かないようにしています。季節感を取り入れるためにホールに職員と入居者様と一緒につくった貼り絵やぬりえなど飾っています	ホールの壁面には、利用者と職員と一緒に制作した季節の作品が飾られています。ソファには定位置があるとの事で、お気に入りの場所でテレビを見ながら、ゆっくりと寛いでいます。ホールからはその時々風景を見る事が出来、季節感を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓には自分の椅子があり、ソファなども定位置があり、くつろいでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドとタンスが設置されていて、タンスの中は季節にあった衣類を入れています。出窓にはご自分の好む小物を置いたりしています。	居室は動線の妨げになるようなものはなく、安全にベッドまで行けるよう配慮されています。思い出の写真や小物などその人なりに工夫され飾られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには個々の名前を掲示しています。また、タンスの引き出しには記載テープを貼ったりしてわかりやすいようにしています。		